

## いっすんぼうし じょうきょう 一寸法師 2：上 京

「一寸法師」は、御伽草子と呼ばれるジャンルの作品です。御伽草子は物語の一種です。比較的短くて単純な筋書きを持つものが多く、南北朝時代・室町時代にさかんに作られました。この時代になると物語の読者層は庶民にまで広がり、御伽草子は女性や子どもを中心に多くの人々に親しまれました。

御伽草子は300編ほどが現存しており、その内容から6種に分けられています。公家物、武家物、宗教物、庶民物、異類物、異国物の6種類です。

テキストとして取り上げた「一寸法師」はそのうち庶民物に属します。庶民物には、身分の低い者が才覚によって出世し、高貴な女性と結ばれるといったサクセス・ストーリーが少なくありません。「一寸法師」はそうした立身出世談の典型と言えます。

「一寸法師」というタイトルは主人公の呼び名で、この主人公の背丈が一寸（約3cm）しかなかったことから来ています。

十二、三歳になった一寸法師はお椀の舟に乗って故郷を旅立ち、都に到着します。しばらく都を見物した後、三条にある宰相殿の屋敷を訪問します。どうやら一寸法師は「おもしろき者」として宰相殿に気に入られたようです。

ほんぶん しゅってん  
本文の出典：

おおしまたてひこ わたりこういち こうちゆう やく むろまちものがたりそうししゅう しんべんにほんこてんぶんがくぜんしゅう  
大島建彦・渡浩一 校注／訳 『室町物語草子集』（新編日本古典文学全集63）

しょうがくかん ねん  
小学館、2002年